

内科

膵臓がん と 腸内細菌 について

膵臓がんは早期発見が難しく、根治も困難で、5年生存率はステージ1で42・9%、手術例全てでは25・7%、診断された全症例で見ると9・9%という数字が示され、大腸がんではそれぞれ、98・8%、81・6%、76・8%であるのに比べて著しく低いものです。近年、膵臓がん と 腸内細菌 の関係に着目した研究が進んできています。手術で

摘出された膵臓がん組織の中に細菌が増殖していて、長期生存例に比べ予後不良だった例の腫瘍組織内には、Fusobacterium という細菌が多く存在していることが分かりました。更にMalassezia という真菌が膵臓がんの中で増殖し、抗真菌剤を投与したマウスでは腫瘍の増殖が抑制され、Malassezia を与えると増殖が進んだと

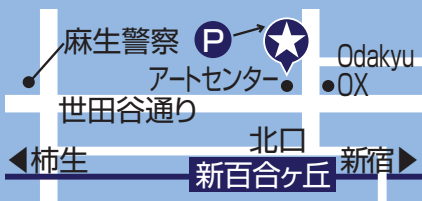
いう実験結果がみられました。これらの研究から、抗生物質や抗真菌剤の投与や、健康な人からの便移植が膵臓がんの有効な治療になることが期待されます。



福本 学

■ 内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>